

## 停電時の屋外設置ボイラー（F a c t）の水抜き方法について

製造メーカー ノーリツ株式会社

主 な 型 式  
 ・GTH-C2448AWDT-1-KO  
 ・FT-4203ARS-AWC

### 《ご注意》

本製品は、停電時の水抜きを想定しておりません。本水抜き方法は、ガス機器の被害を最小限に抑えるためのものです。通常（通電）時の水抜き方法については、取扱説明書をご参照ください。

外気温が氷点下の場合、温度、風の有無等の状況によって停電後1～2時間程度で凍結する可能性があります。凍結による破損防止のため最低限の水抜きをお願いします

お使いの給湯・暖房システムは

- ・屋外設置のボイラー本体
- ・室内点検口内の配管等（ボイラーのおおよそ裏側）で構成されています。

写真A：屋外設置ボイラー（F a c t）



外観（固定ビス）



下部カバー開放後

写真B：室内点検口（例）



外観



開放後

## 停電時に水抜きするときは：

### 1. 水抜き準備

- ① 室内点検口（写真B）を開ける。
- ② 給水元栓①を閉める。
- ③ 給湯栓②を閉める。

※注1）室内点検口の開け方は3、4Pを参照

### 2. 水抜き操作

- ① ボイラー下部のカバー（写真A）を開ける。（固定ビス2ケ）
- ② 給湯水抜き栓③を回し、全開にする。
- ③ ふろ水抜き栓④を回し、全開にする。
- ④ 中和器水抜き栓⑤を水が出てくるまでゆるめる。
- ⑤ 暖房水抜き栓⑥を回し、全開にする。
- ⑥ 暖房水抜き栓⑦を回し、全開にする。

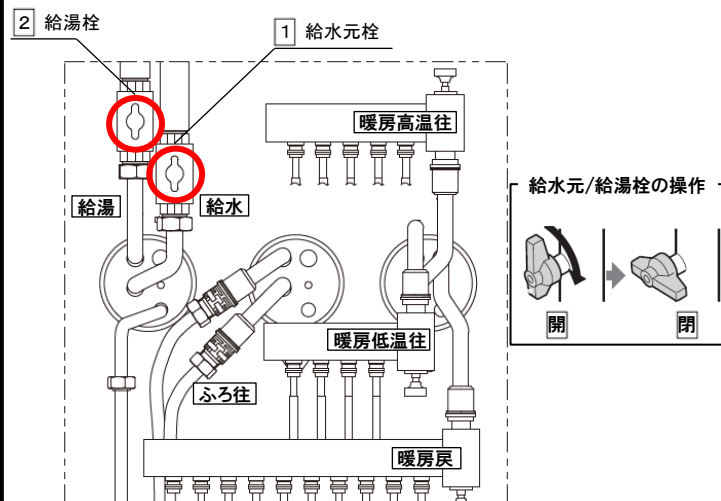
※注2）水抜き栓の操作方法是2Pを参照

- ⑦ 水が出なくなったら開けたすべての水抜き栓 ③、④、⑤、⑥、⑦を閉める。

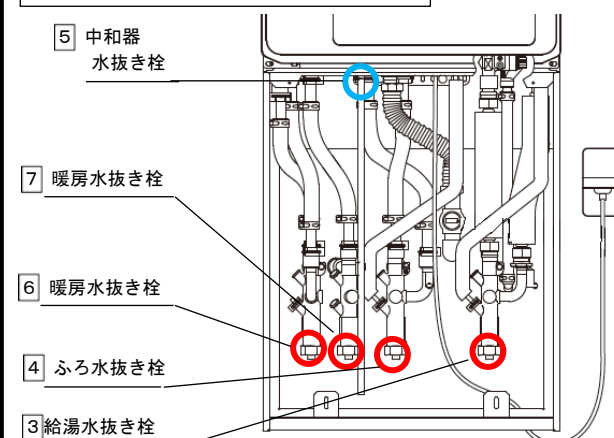
### 3. 水抜き後の操作

- ① ボイラー下部のカバー（写真A）を閉める。
- ※注3）カバーを閉める際の注意事項を参照（2P）
- ② 室内点検口（写真B）を閉める。

B. 室内点検口、構成図



A. 屋外設置ボイラー下部、構成図



## 電気復旧後《水抜き》した機器を使うときは：

水漏れ等の異常が見られた場合、すぐに操作を中止して、北ガスまでご連絡ください。

### 1. 給湯側に通水する。

- ① 室内点検口（写真B）及び、ボイラー下部のカバー（写真A）を開ける。
- ② 電源プラグをコンセントから抜く。
- ③ すべての水抜き栓③、④、⑤、⑥、⑦が閉まっていることを確認する。この時、シャワーや蛇口も閉まっていることを確認する。
- ④ 給水元栓①をゆっくり開ける。

※給水元栓を開ける際は、ボイラーおよび下部のカバー内を確認しながらゆっくり開けてください。

- ⑤ 給湯栓②を開ける。
- ⑥ シャワーや蛇口を開け水が出ることを確認する。

### 2. 風呂側に通水する。

- ① 電源プラグをコンセントに差し込む。
- ② リモコンの運転スイッチを押して「入」にする。
- ③ リモコンの自動スイッチを押して風呂自動を運転する。浴槽の循環アダプターからお湯が出ることを確認する。

### 3. 暖房を試運転する。

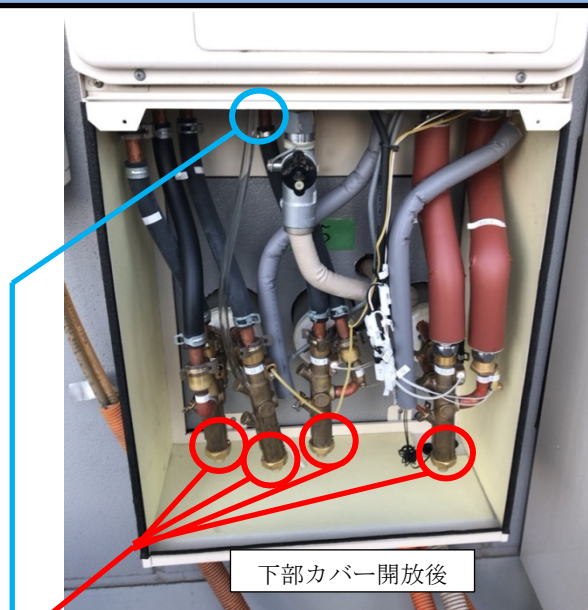
- ① 暖房の運転スイッチを押して「入」にする。
- ② ファンコンベクターまたはパネルヒーターなどの端末器が作動していることを確認する。

※通水後、初めて暖房・風呂自動・おいだきを使用する場合で故障表示（543 や 173）が点滅する場合は、暖房水抜き栓が閉まっていることを確認し、電源コンセントを抜き差しして再度操作してください。繰り返し、同じ故障表示が出る場合は、操作を中止して北ガスまでご連絡ください。

- ③ 室内点検口（写真B）及び、ボイラー下部のカバー（写真A）を閉める。

※注3）カバーを閉める際の注意事項を参照

## ※注2）水抜き栓の操作方法



### ・水抜き栓③、④、⑥、⑦の操作方法

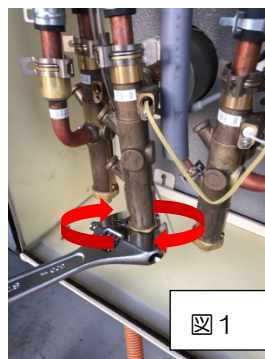


図1

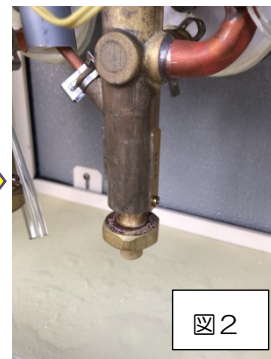


図2

水抜き栓が固い場合は、図1のようにレンチを用いて、水抜き栓を回し緩めていきます。図2のようにこれ以上回らなくなるまで緩めます。水抜き栓③、④、⑥、⑦はすべて同様です。

### ・水抜き栓⑤の操作方法



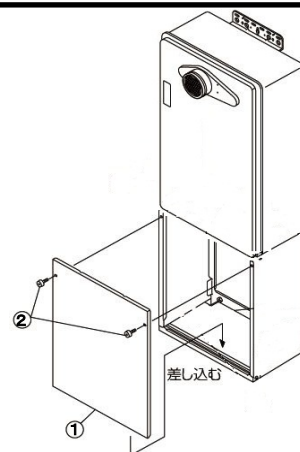
水抜き栓を左に回し、水が出てくるまで緩めます。  
※回しすぎないように注意してください。外れたり、隙間から水が漏れたりします。

## ※注3）ボイラー下部カバーを閉める際のご注意

右図の手順①→②にしたがって、カバーを取り付けてください。

- ① カバー（ふた）を本体下部に差し込む。
- ② 固定ビス（2ヶ）によりしっかりと固定する。
- ③ 取付後、カバー下部の両端を手前に引張り、しっかりと固定されていることを確認する。

差し込まれていないと風で飛ばされる可能性があり、大変危険です。





※注1) 室内点検口の開け方（ビスあり）



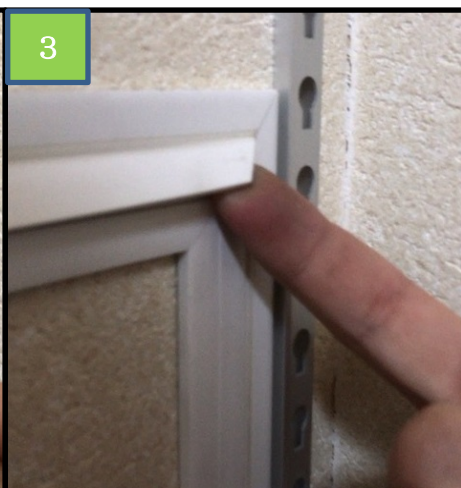
1

点検口はボイラーのおおよそ裏側に設置されています。  
※建物により点検口の大きさは異なります。



2

赤い○で囲った部分をマイナスドライバー等の先が細いもので煽ります。



3

上図のように樹脂部分を持ち上げます。



4

上辺を図のように完全に持ち上げます。



5

中に複数のビスがありますので、外してください。上下左右すべての辺で同じ作業を行ってください。



6

白い樹脂枠とふさぎ板が両方外れます。これら2つは固定されていないので、注意して外してください。

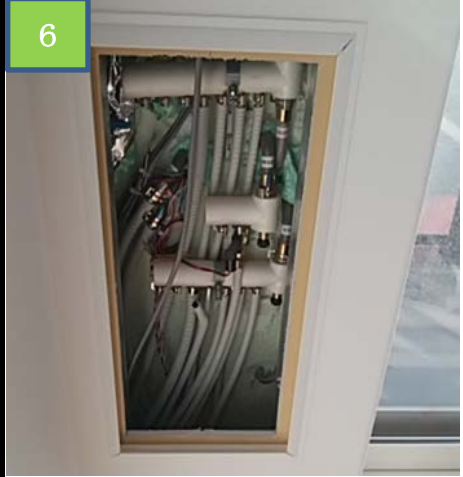


7

白い樹脂枠とふさぎ板を完全に取り外します。

※ふさぎ板取り付けの際は、上記手順の逆を行います。

※注1) 室内点検口の開け方（ビスなし）

|                                                                                    |                                                                                     |                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |   |
| <p>点検口はボイラーのおおよそ裏側に設置されています。<br/>※建物により点検口の大きさは異なります。</p>                          | <p>赤い○で囲った部分をマイナスドライバー等の先が細いもので煽ります。</p>                                            | <p>上下左右すべての辺について、樹脂部分を持ち上げます。</p>                                                    |
|  |  |  |
| <p>壁に傷をつけないよう、樹脂枠を持ち上げながらふさぎ板を取り出します。その際、壁に傷をつけないよう注意してください。</p>                   | <p>ふさぎ板を壁に接触させないように注意しながら取り外します。</p>                                                | <p>ふさぎ板取り外し後</p>                                                                     |

※ふさぎ板取り付けの際は、上記手順の逆を行います。